

《令和5年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和5年7月19日（水）

時 間：15:30～17:00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和5年度 第1回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化及び知識向上

参加者：46名

特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問看護・お世話センター の各職員
阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、
阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

【講義1：アドバンス・ケア・プランニング（ACP）】

講師：阿南市医療センター 寺嶋吉保先生



アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の基本と本人らしい人生の最終段階の支援手法について講義を頂いた。ACPはもしもの時の為に本人、家族等、そして本人に関わる多職種の医療・介護の従事者が一体となって関わることが重要である。

ACPの定義として、ACPは将来の医療・ケアについて、本人を人として尊重した意思決定の実現を支援するプロセスであり、本人が意思決定する力を構成する4つの要素（①理解 ②理論的思想 ③認識 ④表明）を本人との話し合いで注意深く観察し、評価をする。また、人生の最終段階は4パターンある。患者様・高齢者に日頃より「もしもの時のために」「阿南市版たまたま箱」を書いて頂き、そのことを家族が把握することの重要である。また、長寿と天寿を用いて自然な死を積極的に受け入れる文化を目指すことの観点も説明頂いた。



【講義 2：グループワーク】



グループワークでは、講義1で学んだことを踏まえ7班で医療従事者と介護従事者等が均等に分かれ、自己紹介を行い、ACPの取り組みの現状や悩みを話し合った。「もしバナカード」を職員自らが実践し、患者の立場になり、ACPで重要な最善な方針へのコミュニケーション能力の向上をしている取り組みもあった。各班より話し合った内容の発表

をし、再度各班の発表内容を踏まえ班での話し合いをしたことで、自分や事業所に無い考え方や手法を知り、今後の業務・対応への安心に繋がったとの意見があった。また、今後もケアカフェに是非、参加したいとの要望もあった。阿南医療センターの寺嶋先生よりこのカフェで構築した関係で、医療と介護の連携による住民への安心を届けようと力強いお言葉があり、各種案内をするので積極的に知識向上に努めていただき、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりへの団結に繋がった。



【総評】

ACPは話し合いのプロセスであり、まずは信頼関係を築くことがとても重要で本人にとっての最善を考え、本人の価値観、信念、思想、信条、人生観や死生観、気がかり、願い、人生の目標など、人生の物語の中にある思いのかけらをキャッチし、多職種で共有し連携していくことで安心して頂くことが医療・介護の従事者として役割であると再認識できた研修であった。

昨年までコロナ禍でなかなか会うことができない、名前は知っているが顔が分からない医療や介護に携わる方々と直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、地域住民の皆様が在宅での生活が長く継続できるよう、専門性を高める良いケアカフェとなった。

今後もケアカフェ等を開催し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【研修会風景】



※研修動画は[阿南市在宅医療・介護連携支援センターYouTube](#)でご覧いただけます。

【YouTube QRコード】



報告者:センター長 湯浅 祐司